掛川市議会 日本共産党だより

2019.8.1
第9号

6月定例会での
勝川議員の一般質問

安心して年を重ねられる掛川市に！
平和のバトンを後世に！

高齢者も安心して住み続けられる公共交通を

高齢者の事故が相次ぎ、運転免許証返納を考える方もいるが、返納後の足の確保が難しく、買い物や通院などの日常生活が著しく不自由になってしまいちゅうちょしてしまうといった現実がある。

◆勝川　磐田市などで広がっているようなデマンド型乗合タクシーなどのドアツウドアの計画を市として全市に広げる必要はないか。公共交通会議の中でも「地域協働エリア」のあり方を考えてほしい。

◇協働環境部長　地域で出てきたデマンド型タクシーの要望は今後も協議していく。

◆勝川　バス撤退の危険はないのか。バスとデマンド型タクシーを一体的に運営するとか、10年後20年後を見越して柔軟な持続可能な計画を模索するべきでは。

磐田市・デマンド型タクシーパンプレットより抜粋

◇市長　バスは朝夕は中高生で利用が多いが一般の日中の利用は少ない。10年後を見ると大胆な発想も必要になる。改めて抜本的に考えていく。

前日の質問に答える形で「小さい地域コミュニティの助け合いのシステム」が提示されたため、行政の前に地域の自助・共助をという答弁もありました。高齢化が進み、生涯現役も叫ばれる中、担い手の確保も難しくなります。安心して免許返納ができる公共交通システムをつくりたいものです。

公共交通は市が責任を持って構築していくものだということが法律でもうたわれています。まち協や地域に過度の負担を強いることなく安心して年を重ねられるための基盤づくりが大切だと思います。

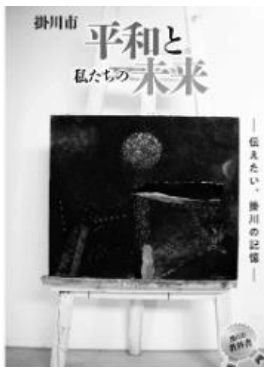
平和学習資料を使って2度と戦争はしないという非核平和都市宣言の理念に立つ取り組みを

今春刊行された平和学習資料「掛川市平和と私たちの未来」は、市の戦争の実態を証言や遺跡調査をふまえ、二度と戦争の惨禍がないように、という平和への誓いを後世に語り継ぐ貴重な資料となっている。

◆勝川　平和学習資料をどのように使い、小中学校における平和教育を行なっていくのか

◇教育長　まずは教員向けの研修会なども行い、活用方法を検討する。体験学習・調べ学習など社会科や総合的学習などの時間を使って、考えていく。

◆勝川　資料の内容を全市民が学ぶ機会をどのようにつくっていくのか。



掛川市が作成した平和学習資料

◇市長　市民にわかりやすい資料として作った。公共施設への配架、資料の販売(510円)や広報など周知をはかりたい。パネル展や市役所のロビーを使った展示など実施主体や内容など検討していく。

◆勝川　中島飛行機地下工場跡、浜野射場跡などの戦争遺跡を市として保存し、看板などの設置もすすめるべきでは

◇市長　歴史を将来の子に伝えていく責任があると思う。それぞれの場所について確認し、内部で検討をしてみたい。

貴重な資料が生かされ、市民に平和へのバトンが受け継がれていくことを望みます。

中島飛行機浜松製作所掛川地下工場跡(遊家)

陸軍遠江射場跡(浜野)

学校給食の植物アレルギーへの対応を計画を持って

国の「食物アレルギー対応指針」市の「食物アレルギー対応の手引き」とアレルギーの安全対策は進んでいる。しかし、こども園や袋井市などが行なっている代替食対応はされていない。

◆勝川　さかがわ以外の給食センターにはないアレルギー対応のラインを設置して代替食対応を進めるべきではないか

◇教育部長　代替食は検討課題と考える。老朽施設改修に合わせ施設、整備の計画をできるだけ早く考えていく。

◆勝川　すべての子どもたちが同じものが食べられる機会を増やすためアレルギーフリー献立の回数を増やして

◇教育部長　27品目148人のアレルギー児に対応するメニューは限られる。複数のメニューに重ならないようにはしている。給食委員会の中でよりよい給食をめざしていく。

保護者や子どもたちの声をしっかり受け止めてアレルギーを持つ子も楽しく食事ができる給食をめざしていってほしいです。

〈発行〉
掛川市議会
日本共産党
掛川市長谷
1-1-1
〈連絡先〉
勝川しほこ
電話・FAX
22-1325

ご意見・ご要望をお寄せ下さい